

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294201450		
法人名	株式会社 ウェルビーイング		
事業所名	グループホーム ウェルビーイング ふれあい船	ユニット名	1階
所在地	静岡県清水区南矢部655番地の7		
自己評価作成日	平成29年12月7日	評価結果市町村受理日	平成30年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&igvosyoCd=2294201450-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価 調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成30年1月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・開所3年目を迎え、職員は優しく穏やかに、その方のペースに沿った対応をします。 ・入居者様の気持ちを一番に考え、毎日の散歩やレクリエーションに力を入れています。 ・かかりつけ医や看護師と協働して健康管理や緊急時の対応を速やかに行います。 ・職員はいつも笑顔でありがとうの気持ちを忘れません。 ・ご希望時は施設での見取りも対応しています。 ・お困りの方には速やかに柔軟に対応します ・入居者様の思いに添えるように希望ノートを作成し情報共有し実行に移します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、法人傘下の特定施設入居者生活介護施設と兼務の管理者のもとで、満3年を迎える。法人管理部門が充実している関係で、職員のサービス向上に関する研修も整備されたマニュアルで、定期的実施している。職員レベルは高く、業務の振り返りは確実に行われ、支援内容も共有され、各職員はチームの一員として機能している。日々、職員と生活を送る利用者に対しては、誇りやプライベートを重視し、自ら可能な能力を最大限に引き出す支援を心掛けている。利用者は、穏やかでありながらも、笑顔で和気あいあいと過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度より施設理念やグループ理念を職員に浸透させるため、施設入り口と事務所に掲示している。少しずつ実践に繋がっている。事業所ミーティングで理念の説明を行っている。	事務所には法人理念「敬愛・創造・貢献」を掲げ、その信条のもとに日常ケアや生活介護の両面から業務を分担し、シフト等を考えている。その中で事業所は機能訓練を重視した関わりを推進するよう取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りへの参加や近隣の保育園との交流や行事に参加し、地域交流している。また、今年度は月に一度程度は市区のボランティアが訪問している。今後も地域交流を増やしていきたい。	自治会に加入し、地域住民との関係も良好である。地域の夏祭りでは、利用者が模擬店で賑わう夜祭に参加したり、稚児行列の訪問を受けたりする。近隣保育園児との交流もある。事業所の防災訓練には近隣住民の参加を呼びかけている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に対しての理解や支援方法の地域貢献は進んでいない。認知症キャラバンなどの活動に参加していきたいと考えている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の普段の様子や行事での様子を表示しその時の様子を説明している。また、リーダーからご家族様に個別説明しご意見を伺うことでサービス向上に努めている。	運営推進会議は定期的開催され、スライドショーの報告形式を取り入れ、理解し易い内容となっている。会議開催の意義を考えると、委員間の討議内容が大切であり、委員の定期的参加に難ある事が懸念される。	市担当者の出席がなくても、市に代わり地域に根ざした高齢者の福祉を包括して情報の収集提供を行なう地域包括支援センター及び自治会からは毎回の出席を期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターや市町村担当者に連絡し、相談するようにしている。	報告書類の提出は市担当窓口へ直接訪問し手渡す事を心掛け、連絡を取り合えるよう努めている。運営にあたっての介護保険適用上の困難事例等があっても、直ぐに窓口で相談できる体制になっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度より各ユニットで2週間に一度、カンファレンスを行い身体拘束にせずに代替のケアができるよう取り組んでいる。玄関は駐車場が斜めで道路に面している為、施錠している。	身体拘束をしないケアに関する基本的事柄は職員全員が理解している。介護の現場での気づきや事例があればカンファレンスで討議している。最近では家族との相談で設置された居室のセンサー撤去が課題となっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員に高齢者虐待の研修を定期的に行い、予防に努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を利用されている方の担当者が毎月面会に来られた際に、その方の状況などを職員から話す機会を持つようにしている。また、今後必要な方がいらしたらアドバイスしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に内容を説明し、不明な点など詳細に説明している。また、改定の際には書面や電話、運営推進会議などで管理者が説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置し、意見をいただくようにしている。また、入居者様やご家族からのクレームをいただいた際に職員会議で話し合い解決するようにしている。	家族の世代交代に伴い意見する家族が増えている。毎月届ける「たより」のコメント欄で近況を伝えれば意見や要望がかえって来るケースが多い。利用者や家族来訪時の意見や要望と共に職員全員で協議し反映に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所ミーティングで会社からの伝達を管理者が行い、職員の意見を取り上げ、反映できるようにしている。意見の多くは代表者会議やグループホーム会議に議題として提案している。	法人内の代表者会議や事業所内会議で、諸伝達や提案が相互に伝わり易い仕組みができています。事業所で感染症対策について討議し要望を伝えれば、系列施設からの支援で薬品や備品が速やかに整備された事例もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	グループのキャリアパス制度で半年に一度、職員全員の評価を行うことで就業環境を整備している。また、職員の家庭環境などに配慮し勤務時間など調整している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ内の研修や隣接するグループ施設の研修への参加ができるように取り組んでいるが、全員の参加はできていないので今後も施設外の研修参加など促したい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	知識や技術の向上やネットワーク作りの為に同敷地内にある有料老人ホームをはじめ社内研修や外部研修参加を促している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にご本人の要望などを確認するようにしている。また、入居後もご本人の困り事などを随時聞き取り職員で話し合い改善することで安心できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談などでご家族から聞き取りをし施設でできることなどを説明している。今までの生活の中での苦労など気持ちを傾聴させていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	歩行器などその方に合った必要な物やサービスを準備し、随時利用できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を畳むなどご本人ができることをやっていただくなど、なるべく一方的にならないように努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員から話すことが難しい場合などご家族に相談することでうまく進み、またご家族からアドバイスをいただくなど常に信頼関係を築けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の知人などプライバシーを保ちつつ、面会が可能な方が面会に来られるように努めている。	馴染みの物や人に囲まれ生きてきた利用者の心の底には誇りやプライバシーも同様に生きているので、その心の奥の思いを重視し、良い思い出は続くようにと願い支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルになることもあるが職員が仲介し、なるべく皆と一緒に关われるようにすることで別のご入居者様がご本人の気にかけてたりするようになってきている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	営業時に担当ケアマネと情報共有している。必要時職員にも情報共有している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望や今の思いなどを把握し今年度より「希望ノート」に記入している。また、ご本人の希望など職員で話し合い実現できるように努めている。	一人ひとりの希望や思いは日常会話の中で直接聴き取っている。困難な場合は表情や動作などから判断し、利用者本人と家族に聴き合わせて把握に繋げている。「希望ノート」への記入も確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェースシートやひもときシートにまとめて、情報共有するようにしている。また、入居後にご本人から聞いた話などを追加するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活パターンなどを記録している。職員で話し合い情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスやサービス担当者会議で話し合い、職員が気づいたことを話し合い家族や関係者の協力が必要な場合は随時相談しできるようにしている。また、その内容を計画に入れて情報共有することで反映できるようにしている。	利用者本人と家族の希望に加え、重要な関係者の意見を反映させ「楽しく・いつまでも元気で」を念頭におき、現状に即した介護計画を作成している。計画と実践、モニタリングまでの丁寧な取り組みを個人ファイルで確認できた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスで話し合いケアを一定期間実践し気づきなど記録に残し再評価するようにしている。再評価の際には変化や様子などを情報共有している。 介護計画への見直しは多少の時間のずれはあるが見直しに活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方の希望やニーズなどを職員間で話し合い、対応するよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の資源を活用しているが、知らない地域資源も多く不十分である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と連携し、ご本人が適切な医療を受けられるようにしている。また、個々で希望される病院への受診を勧めたり、送迎や付き添いを行っている。	医師による隔週の往診や容態急変時の24時間の協力体制が整っており、医師や家族・事業所と良好な関係を築いている。医療受診への不安を打ち消す家族の声もアンケートに寄せられている。適切な受診支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師なので全員の状態を把握している。有料老人ホームの看護師が週に2回は巡回している。また、その時々看護職に連絡や相談し、対応している。夜間はオンコール体制にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ソーシャルワーカー様に定期訪問し関係作りを心がけている。また、入院した際に定期的に面会に行き、病院関係者との相談などを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	管理者から医師や家族に連絡し、今後について話し合っている。	医療行為が伴う看取りケアは基本的には応じていない。家族や医師・看護師・管理者などが十分に話し合い、チームで支える体制を整備し、開設から7～8名の看取り支援を行っている。また、経験や社内教育により、職員の対応能力も着実に培われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	グループ内で研修を行い訓練している。また、急変時の対応方法を掲示し、周知できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	グループでBCPを設定し、定期的に訓練を行っている。先日地域の消防署を交えて訓練したが全員訓練に参加はできなかった。今後も訓練を続け、全員に周知していきたい。	丈夫な造りの事業所と隣接関連施設を避難場所に定めている。対策の一貫として災害組織委員を決め、防災用具や日用品・食料品・薬など必需品の備蓄や、災害状況に応じた避難方法などを検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いが職員により違っていたが、事業所ミーティングなどでどんな言葉遣いが駄目なのか話し合い徹底することで少しずつ改善している。	適切な言葉遣いを職員全員が学び、呼称は名字に「さん付け」で統一している。個人情報に関わる書類は事務所内の鉄庫で施錠保管されている。一人ひとりの尊重とプライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人に要望などを聞いたり、行事食のメニューなど選んでいただくなどなるべく自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中のスケジュールに沿って声かけしているが、無理強いはずせず午前中は居室で過ごすなどご本人のペースでなるべく過ごせるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分でできる方は自由にできているが、できない方は服が同じような物など画一的な傾向である。今後、改善していきたい。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭いて頂いたり、食器を拭いて頂いたりしている。 食事は外部で作っているため、食事を作る楽しみは少ないかも知れない。	隣接する関連施設で調理され、事業所の台所で盛り付けして配膳されている。食欲を促す職員の声掛けに誘われ、利用者はほぼ完食している。菜園で採れたて新鮮な野菜や利用者同士で作るおやつも楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事摂取量や一日の水分摂取量をチェックし確保できるようにしている。 また、水分でムセやすい方には水分ゼリーをとって頂く、ミキサーで食べ物を細かくするなど摂れるように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力でできる方は声かけし、口腔ケアをするようにしている。 介助が必要な方で拒否が強い方がいたが、口腔ケアの場所を変えるなど工夫し少しずつうがいができるようになっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁する方が増え、認知症状で動作がわからなくなっている方も居るが、ズボンの上げ下ろしを介助するなどなるべく日中はトイレでの排泄ができるように支援している。	個々の排泄状況を記録し、職員全員が共有することで利用者の自立支援に繋がっている。自主的な排泄が困難である利用者が、日々の生活の中で力を取り戻し、食事摂取の自立にも繋がっている。利用者の力の活かしを支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操に腹部マッサージを取り入れたり、水分を十分に取っていただくよう取り組み、すっきり排便できるようになってきた。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な曜日は決めているが、拒否などに入れない時は別の日に入れるようにしている。 また、羞恥心が強く人前で脱衣ができない方はつい立てをすることで入浴できるようにするなど工夫している。	季節湯の取り入れや、入浴に関するどんな希望にも応える入浴券の当たりくじなど、入浴を楽しむための画期的な取り組みがされている。家庭仕様の明るい浴室で、個々の体調に合わせた希望に沿う入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に安眠できるように努めている。また、日中でも休息したい時は居室で休めるよう声かけし休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報をファイルに入れ、その方が何を内服しているかなど把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	人により毎日ではないが、一人ひとりができることを把握しゲームや運動会など行事やレクリエーションなどで楽しむことができるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩など外に出る機会を持てるように工夫している。 また、誕生月に「地元に行きたい」と希望していた方を職員が車で連れて行った。	天候と体調の良い日は、事業所周辺や近くの神社まで散歩に出かけている。月の行事には、大型バスでの外出も計画され、初詣や動物園・図書館・観光スポット周遊や足湯・季節の花めぐりなどを満喫している。過去を懐かしむ利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内でお金を使う機会が少ないため、入居者様にお金を持たせていない。行事などで屋外に出た際、買い物ができるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持参している以外の方は、希望時に手紙や電話のやり取りができるように努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレなどわからなくなってしまう方も居間で、わかりやすく表示している。フロアに季節感のある物を掲示し季節を楽しんでいたくよう工夫している。 西日が強いので室温や明るさなどに注意するようにしている。	居間は自然光と照明を適度に取り入れ、廊下は少し明かりを抑えて利用者が落ち着ける雰囲気である。節分飾りやシクラメン・グッピーの水槽が置かれ整えられた共有空間や、トイレ内の貼り紙から、安全確保と感染症予防の取り組みも見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのソファで入居者同士で話しをしたり、テーブル席に座り皆でTVを見たり思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇など本人が大切にされている物や好きな物などを居室に置いたり、使えるようにするなどしご家族にも持ってきていただけるよう相談している。	居室は利用者と担当職員により綺麗に片付けられ、テレビやカレンダー・写真など、好みの物を置いている。仏壇にお茶を備え手を合わせる利用者など、利用者が思い思いに楽しめるような工夫と支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食事の後片付けや水撒きや洗濯たたみなど入居者様毎の出来ることを協力して行ってもらい、やがて負担にならない程度の役割りになってきている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294201450		
法人名	株式会社 ウェルビーイング		
事業所名	グループホームウェルビーイングふれあい船	ユニット名	2階
所在地	静岡市清水区南矢部655番地の7		
自己評価作成日	平成29年12月8日	評価結果市町村受理日	平成30年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigvosyoCd=2294201450-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価 調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成30年1月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・入居者様は女性ですが自由にゆっくりとお過ごし頂いています。 ・常に入居者様の立場に立って、居心地のよい環境作りをしています。 ・入居者様のその人らしさを大切に、否定せず人生の先輩として大切にしています。 ・良いケアができるようにリーダーを中心にチームワーク良く、お互いに認め合い努力しています。 ・かかりつけ医や看護師の指導の下、健康増進や疾病予防に努めています。 ・入居者様の今までの人生やその人らしさを大切に介護しています。 ・元気で元気ある生活を支えるように職員も元気はつらつです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価票に記入されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度より施設理念やグループ理念を職員に浸透させるため、施設入り口と事務所に掲示している。少しずつ実践に繋がっている。	※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価票に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りへの参加や近隣の保育園との交流や行事に参加し、地域交流している。また、今年度は月に一度程度は市区のボランティアが訪問している。今後も地域交流を増やしていきたい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に対しての理解や支援方法の地域貢献は進んでいない。認知症キャラバンなどの活動に参加していきたいと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の普段の様子や行事での様子を表示しその時の様子を説明している。また、リーダーからご家族様に個別説明しご意見を伺うことでサービス向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターや市町村担当者に連絡し、相談するようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度より各ユニットで2週間に一度、カンファレンスを行い身体拘束にせずに代替のケアができるよう取り組んでいる。身体拘束は現在行っていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員に高齢者虐待の研修を定期的に行い、予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	グループ内で権利擁護についての研修を行っているが、全員参加はできていない。制度の利用について今後も必要な方がいらしたらアドバイスしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に内容を説明し、不明な点など詳細に説明している。 また、改定の際には書面や電話、運営推進会議などで管理者が説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置し、意見をいただくようにしている。 また、入居者様やご家族からのクレームをいただいた際に職員会議で話し合い解決するようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所ミーティングで会社からの伝達を管理者が行い、職員の意見を取り上げ、反映できるようにしている。意見の多くは代表者会議やグループホーム会議に議題として提案している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	グループのキャリアパス制度で半年に一度、職員全員の評価を行うことで就業環境を整備している。 また、職員の家庭環境などに配慮し勤務時間など調整している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ内の研修や隣接するグループ施設の研修への参加ができるよう取り組んでいるが、全員の参加はできていないので今後も施設外の研修参加など促したい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同敷地内の有料老人ホームと委員会や研修を一緒に取り組みアクティビティや行事など入居者様の満足度を上げるアドバイスをもらっている。外部研修にも参加している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にご本人の要望などを確認するようにしている。また、入居後もご本人の困り事などを随時聞き取り職員で話し合い改善することで安心できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談などでご家族から聞き取りをし施設でできることなどを説明している。今までの生活の中での苦労など気持ちを傾聴させていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	歩行器などその方に合った必要な物やサービスを準備し、随時利用できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を畳むなどご本人ができることをやっていただくなど、なるべく一方的にならないように努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員から話すことが難しい場合などご家族に相談することでもうまい進み、またご家族からアドバイスをいただくなど信頼関係を築けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の知人などプライバシーを保ちつつ、面会が可能な方が面会に来られるように努めている。近所の方の面会もある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルになることもあるが職員が仲介し、なるべく皆で一緒に関われるようにすることで別のご入居者様がご本人の気にかけてたりするようになってきている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	営業担当がケアマネージャーさんを毎月訪問し情報共有している支援方法などを伝えることが出来ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望や今の思いなどを把握し今年度より「希望ノート」に記入している。また、ご本人の希望など職員で話し合い実現できるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェースシートやひもときシートにまとめて、情報共有するようにしている。また、入居後にご本人から聞いた話などを追加するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活パターンなどを記録している。職員で話し合い情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスやサービス担当者会議で話し合い、職員が気づいたことを話し合い家族や関係者の協力が必要な場合は随時相談しできるようにしている。また、その内容を計画に入れて情報共有することで反映できるようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスで話し合いケアを一定期間実践し気づきなど記録に残し再評価するようにしている。再評価の際には変化や様子などを情報共有している。 介護計画への見直しは多少の時間のずれはあるが見直しに活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方の希望やニーズなどを職員間で話し合い、対応するよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の資源を活用しているが、知らない地域資源も多く不十分である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と連携し、ご本人が適切な医療を受けられるようにしている。体調変化時は医師から直接面談してもらっている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	その時々看護職に連絡や相談し、対応している。毎日のケアの中で“いつもと違う”事を発見できるように看護師から細かな観察ポイントや技術の指導を受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際に定期的に面会に行き、病院関係者との相談など行っている。洗濯や必要物品の補充を行いながら情報収集を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	管理者から医師や家族に連絡し、今後について話し合っている。ただし、地域の関係者との連携までには至っていない。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	グループ内で研修を行い訓練している。また、急変時の対応方法を掲示し、周知できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	グループでBCPを設定し、定期的に訓練を行っている。先日地域の消防署を交えて訓練したが全員訓練に参加はできなかった。今後も訓練を続け、全員に周知していきたい。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いが職員により違っていたが、事業所ミーティングなどでどんな言葉遣いが駄目なのか話し合い徹底することで少しずつ改善している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人に要望などを聞いたり、行事食のメニューなど選んでいただくなどなるべく自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中のスケジュールに沿って声かけしているが、無理強いはいせず午前中は居室で過ごすなどご本人のペースでなるべく過ごせるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分でできる方は自由にできているが、できない方は服が同じような物にならないように工夫している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭いて頂いたり、食器を拭いて頂いたりしている。 食事は外部で作っているため、食事を作る楽しみは少ないかも知れない。おやつ作りには参加してもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事摂取量や一日の水分摂取量をチェックし確保できるようにしている。 また、水分でムセやすい方には水分ゼリーをとって頂く、ミキサーで食べ物を細かくするなど摂れるように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを実施しているが、自分でできる方で拒否が強く毎食後にできていないこともある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレに行けるが時折失禁していることがある方は拒否が強く衣類の交換も難しい。支援の方法を工夫し模索している。どの方なるべく日中はトイレで排泄できるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操に腹部マッサージを取り入れたり、水分を十分に取っていただくよう取り組み、すっきり排便できるようになってきた。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な曜日は決めているが、拒否など入れない時は人員がいる範囲で日時など関係なく入れるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に安眠できるように努めている。また、日中でも休息したい時は居室で休めるよう声かけし休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報をファイルに入れ、その方が何を内服しているかなど把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりができることを把握しゲームや運動会など行事やレクリエーションなどで楽しむことができるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩など外に出る機会を持てるように工夫している。 誕生月などで外食に行ったりドライブに行くこともある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内でお金を使う機会が少ないため、入居者様にお金を持たせていない。行事などで屋外に出た際、買い物ができるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持参している以外の方は、希望時に手紙や電話のやり取りができるように努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレなどわからなくなってしまう方も居るので、わかりやすく表示している。フロアに季節感のある物を掲示し季節を楽しんでいたくよう工夫している。 西日が強いので室温や明るさなどに注意するようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのソファで入居者同士で話しをしたり、テーブル席に座り皆でTVを見たり思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇など本人が大切にされている物や好きな物などを居室に置いたり、使えるようにするなどしご家族にも持ってきていただけるよう相談している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	依存的な入居者様が多いが少しでも「出来ること」を行ってくれたときは褒めて感謝している。		